

【テーマ1】 国立大学法人山形大学 山形の高校生と大学生が創り出す 教職の魅力創造プラットフォームの構築

調査の概要

◆課題認識と現状

- ・高校生や大学生が、教職の魅力を伝える客体となっており、自ら創造する主体となっていない。
- ・中学生とその保護者をターゲットとするという視野を欠いている。
- ・大学、教育委員会それぞれの取り組みを統合し、交流する組織化の方向性を欠いている。

◆調査研究の目的

- ・高校生や大学生を教職の魅力を創造する主体として位置づけなおす場を創り出す。
- ・「教職世界」を構築する過程を明らかにする調査分析手法を開発する。
- ・「教職の魅力」啓発事業を持続的に計画・推進する組織を構築する。

◆調査研究の方法

- ・「教職の魅力創造プログラム」の開発と実施、「教職の魅力創造プラットフォーム会議」の設置、早期啓発のためのPR動画の作成、質問紙調査の開発とプログラム参加高校生大学生に対する調査の試行

取組のポイント・成果

①「教職の魅力創造プログラム」の開発実施

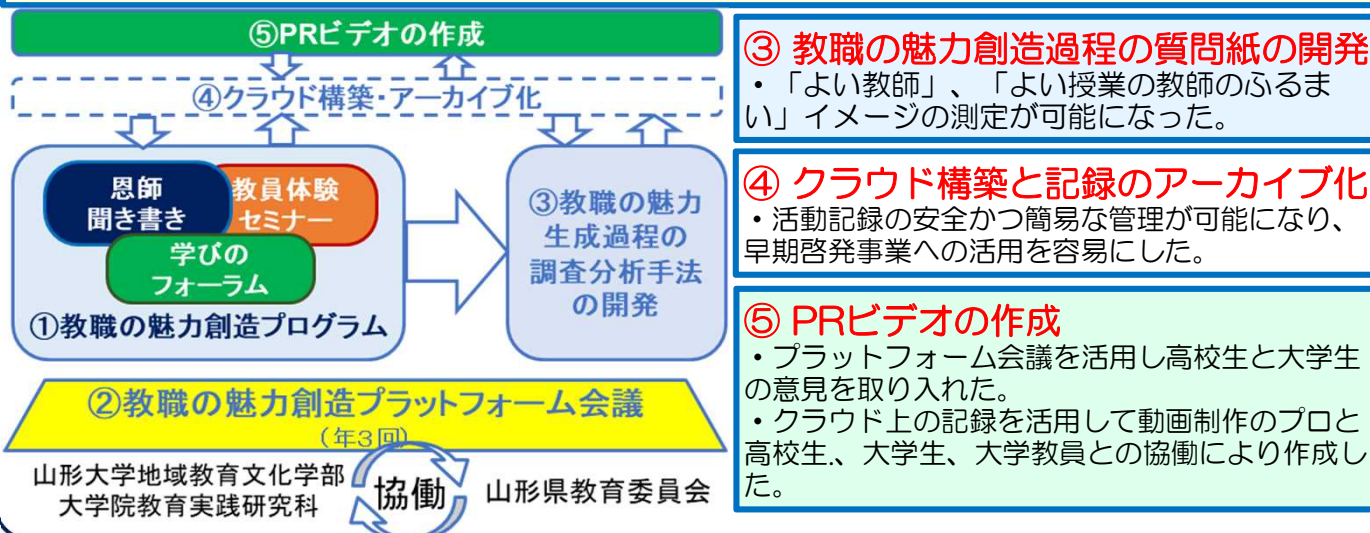
- 学びのフォーラム：高校生、大学生、教員の学びの場を統合。
- 教員体験セミナー：高校生、大学生の共同インターンシップの実現。
- 恩師聞き書き：大学生、教員が共同で「教職世界」を探究する場を創出。



学生がデザインした
教職の魅力創造プロジェクト
のロゴ

②「教職の魅力創造プラットフォーム会議」の設置

- ・大学(副学長、学部長、研究科長、プロジェクトメンバー)、教育委員会1名、プロジェクト参加校教員1名、公立学校校長2名、大学生2名、高校生2名による議論の場を構築。
- ・11月、12月、2月の3回実施。



今後の課題

◆山形県内における教員志願者の増加に向けた取り組みの継続

- ・「教職の魅力創造プログラム」の実施により、教職への意志の持続、強化を進める。
- ・「教職の魅力」創造過程の質問紙調査により、エビデンスを蓄積する。
- ・PR動画を中学生を対象に活用し、教職志願者の裾野を広げる。
- ・「教職の魅力プラットフォーム会議」により、「教職の魅力」啓発事業を推進、省察し、革新する。